

G92 型挟搬機 マジックハンド

取扱説明書



株式会社富士フォーチュン

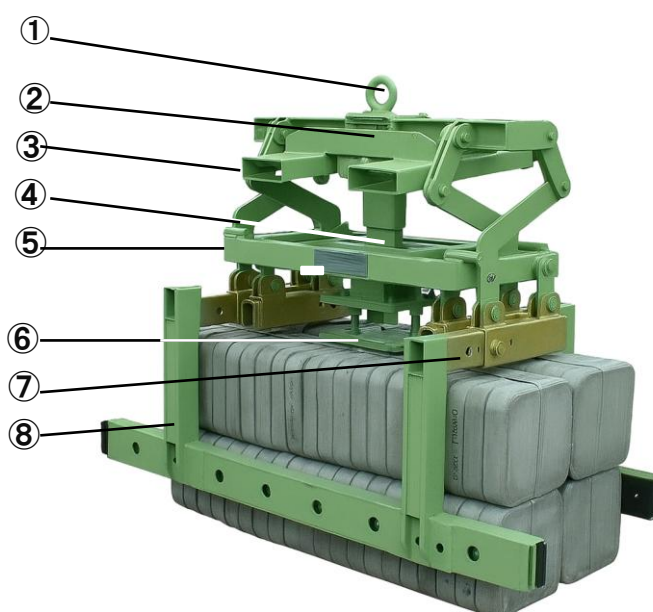
静岡市葵区羽鳥 7 丁目 6 番 37 号

☎054-659-9024 Fax054-659-9025

<https://fujif.co.jp>

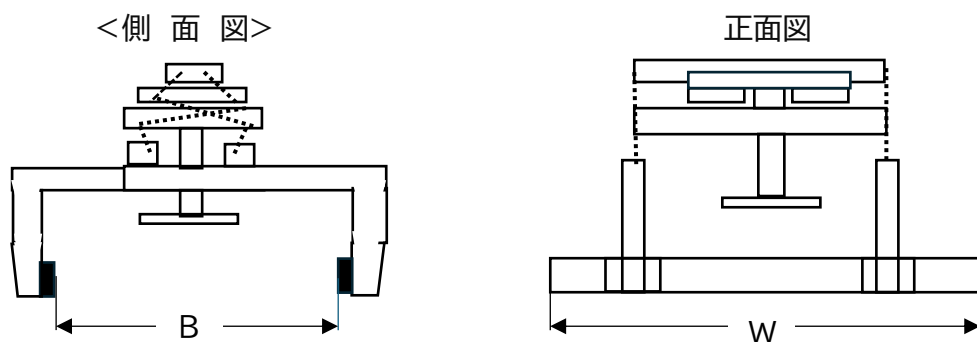
構 造

1. クレーン用 環
2. ユニバーサルジョイント
3. フォークさや
4. ガイドパイプ(開閉制御函内臓)
5. 主機構
6. ストッパー
7. 挟持板支持桁
8. 挟持板



- フォークさやには下方より抜け落ち防止用の「圧着板」が取付けられていますので、フォークさやに差し込んだ後で「押しネジ」で固定するか、フォークリフトのマストと挟搬機のクレーン用環の間を鎖あるいはワイヤなどで落下防止策を施して下さい。
- ユニバーサルジョイントは、フォークさやとメインフレームの間にあって、フォークリフトの姿勢に関係なく常に挟搬機が垂直に保持するための機構です。
- フォーク(またはクレーン)操作により挟搬機が下降し、ストッパー板が挟持物に接触すると同時にガイドパイプ内の開閉制御装置(制御函)が接触を感知し、オペレーターはフォーク(またはクレーン)を上下させるだけで、「掴む(挟持板:閉)」と「離す(挟持板:開)」の動作を自動的に繰り返します。
- 挟持板支持桁には、掴み幅調整用の固定ピンの穴があげられています(図1⑥)ので、次ページの「操作方法」にあるように、挟持板を支持桁に沿ってスライドさせて、固定ピンにより挟持に最適な幅に調整することができます。

第 2 図



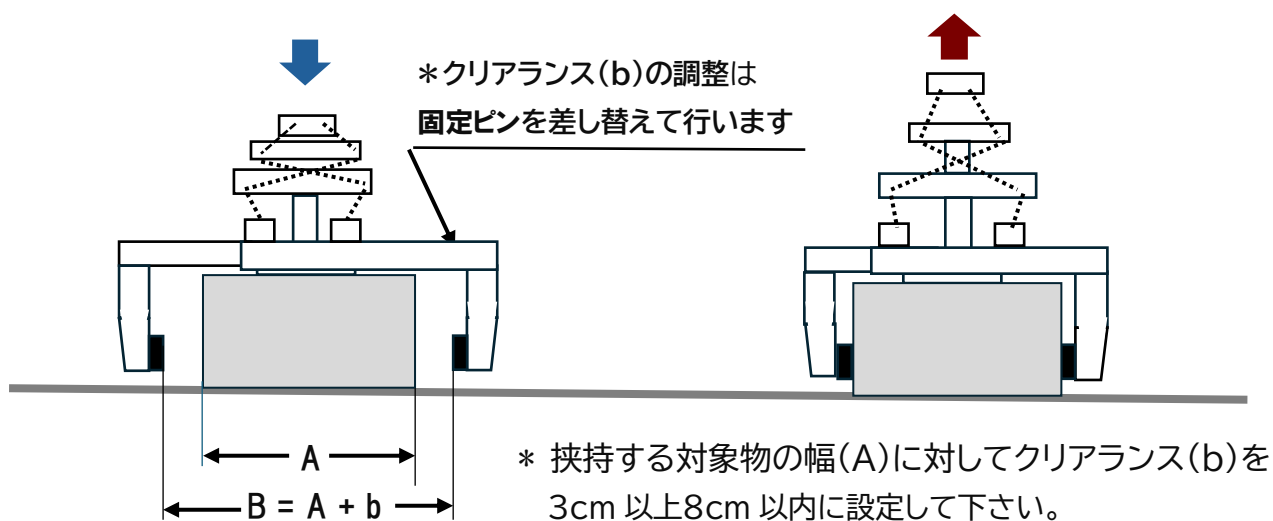
機種	G92-15
吊 下 荷 重	1.5 ton
W	1600 mm
B (min)	300 mm
B (max)	980mm

操作方法

最初に挟搬機を吊り上げると、下図の A(第 3 図) あるいは B(第 4 図)のどちらかの状態になります。挟持板を支持桁上でスライドさせて、下図の説明の通りに挟持物の掴み幅(A)に対する適正なクリアランスの調整をします($B=A+b$)。適正なクリアランスが確定したらピンでスライドを固定します。

A. 挟持板が開いた状態 (第 3 図)

B. 挟持板が閉じた状態 (第 4 図)

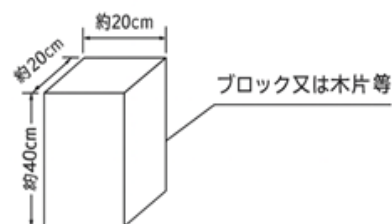


A(第3図)の状態のとき:

- ① そのまま挟搬(挟んで運搬する)ができるので、B 幅を解説のように調節してください。
- ② B の間隔が決まりましたら、挟搬機を中心にあるストッパー板が挟持物の上に接触するまで、挟搬機をゆっくり降ろします。ストッパー板が接触したあとも、完全に下降が終って挟持板が開ききるまでフォーク(またはクレーン)を下げてください。
- ③ 次に、フォーク(またはクレーン)を静かに引き上げます。上方への動きに合わせて挟持板が閉まり始めますから、挟持ゴムが挟持物を掴んだところで適当な高さまで挟搬機を持ち上げ、目的の場所まで移動します。
- ④ 目的の場所に移動が終わったところで、フォーク(またはクレーン)を挟持物が設置するまで静かに下げると、挟持板が開き始めます。
- ⑤ 下げ切ったところで挟持板も全開位置で止まりますので、そのままフォーク(またはクレーン)を引き上げると、挟持板は開いたままのポジションを維持します。
- ⑥ 以後、②の操作に戻って、繰り返し挟搬作業を行います。

B(第4図)の状態のとき:

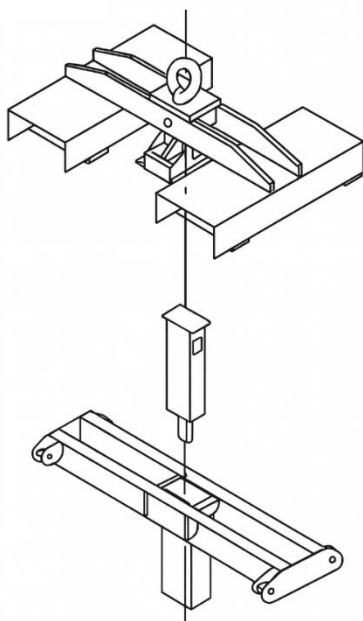
- ① 挟持板が閉まった状態で、そのままでは挟持物を掴むことができないので、下の図に示すようなサイズの台を用意して、その上に挟搬機を降ろします。
- ② ストッパー板が台に乗って挟持板が開き始めましたら、「A」の②の状態と同じになりますから、以後同様の操作をおこなってください。



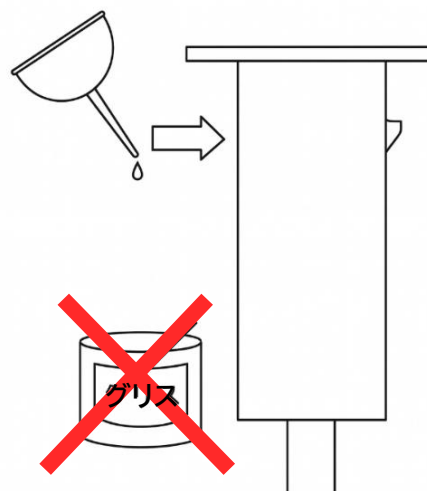
保守管理

- (1) 開閉制御函内部の注油あるいは作動不良による開閉制御函の交換が必要な場合には、第5図の説明に従ってフォークサヤとユニバーサルジョイントが一体となっている上部構造を上部フレームから取り外し、上部フレーム中央に収納されている開閉制御函を取り出します。
- (2) 常に円滑な開閉作動状態を維持するために、2～3 か月に一度程度開閉制御函に注油してください。(第6図) ただし、グリスは開閉制御の円滑な動きを妨げることになるので絶対に使用しないでください。
- (3) 挟持ゴムは、消耗が進みましたら裏返して使用できます。また、開閉制御函、挟持ゴムなどの消耗部品は交換部品として対応しておりますので、部品表を参照のうえご注文下さい。

第5図 開閉制御函取出方法



第6図 注 油



取り扱い上の注意

□ 開閉動作がスムーズに行われない場合

- (1) 開閉制御函を取り出し、付着した油汚れ、グリス、泥などの頑固な汚れを落とすための洗浄剤（デグリーサーあるいは軽油など）で洗浄してから外筒の下部から突出している板状のロッドを手で上げ下げし、外筒の側面の左右の穴からカムが交互に現れることを確認してください。
- (2) カムの動きが悪い場合は、新しい装置と交換してください。
- (3) 挟搬機を無理に上下に動作させると開閉制御函の故障の原因になりますので、挟搬機の手扱いはご注意ください。

